

てい えん 庭 園

てい
庭

えん 園の てい 手入れを、それは
こまめに している 庭師が
いました。ところが、
ある朝 あさ ていえん 庭園に い 行ってみると、木々や
くさばな 草花たちが とても ふさぎこんでいるでは
ありませんか。





「おやまあ、一体 どうしたんだ！」庭師は 思わず
声をあげました。「草花たちや 木々は、どうして
そんなに 悲しそうなんだい？ 見事な カシの木君、
何が 君を なやませているのかい？」

カシの木が 悲しそうな 声で 言いました。
「わたしは、カシの木でいるのがいやなのです。
上品な 松の木のように、背が 高くなりたいのです。
それなのに、わたしは 太っちゃでぶざまです。」

松の木の方を 向くと、庭師は たずねました。「松の
木君、君は どうしてそんなに しょげてるんだい？」

「世の中は 不公平です！」 松の木が 声高に
言いました。「わたしは ぶどうの木だったら
よかったのに。そうしたら、何千つぶもの
ぶどうを ならせることができたのに！」

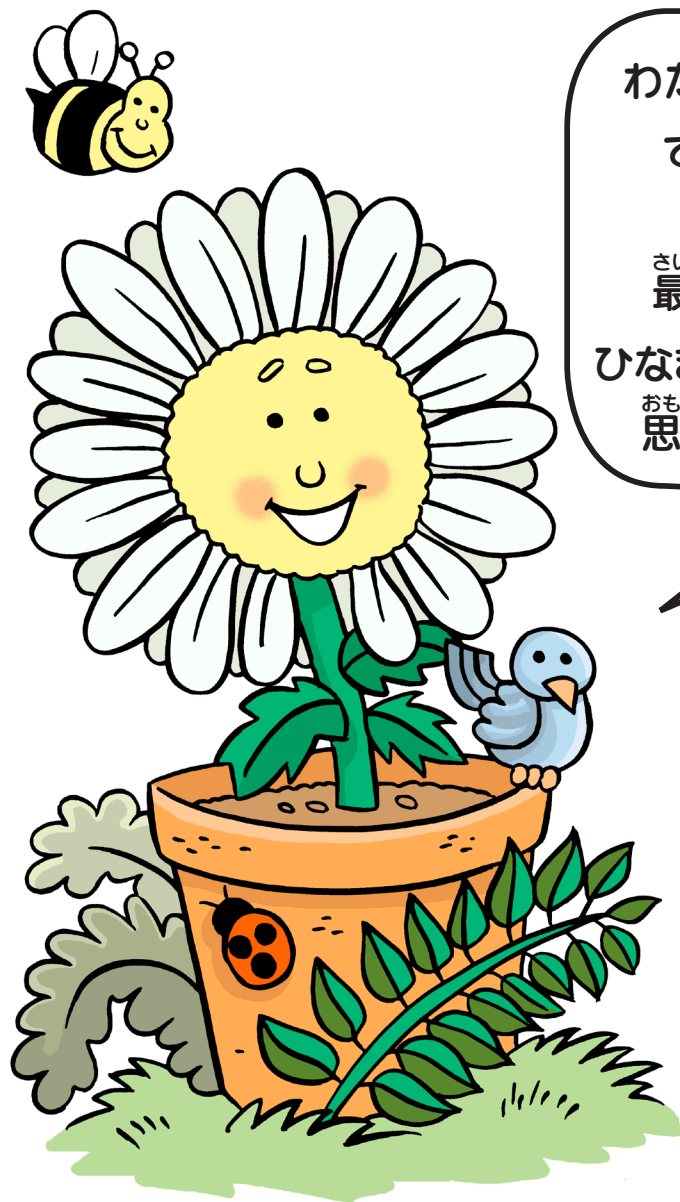
すると、ぶどうの木が^き出しぬけに^だ言いました。
「わたしは、くねくねした^{えだ}枝は^せいやだね。背が^{たか}高く、^{おお}大きな^み実を^もならせることの^きできる、
桃の木だったらよかったのになあ。」

庭師は^{にわし}花だんに^か目を^めやりました。すると、
ゼラニウムが^ななみだを^{きみ}うかべています。
「どうして^な泣いているんだい？^{きみ}君の^{はな}すてきな^{かな}花びらが^{かな}悲しみに^{はな}しおれているじゃ^{かな}ないか。」

「満足できないのです。」と、ゼラニウムが
かん高い^{だか}声で^{こえ}言いました。「すてきな^{はな}花を
さかせる^{かお}ライラックみたいに、あまい^{はな}香りを
放つことが^{はな}できないんですもの。」

「一体^{いったい}どうしたら^{にわし}いいんだろう？」庭師は
考えました。「かつて^{かんが}美しく^{うつく}あった^{ていえん}わたしの^{ていえん}庭園が、
今は^{いま}こんなにも^{かな}悲しみに^み満ちているなんて。」





わたしは、^{じぶん}自分の
^{かぎ}できる限りを
つくして、
^{さいこう}最高の ^{ちい}小さな
ひなぎくに なろうと
^{おも}思ったんです！

その時^{とき}です。庭師^{にわし}は、陽気^{ようき}に
ほほえんでいる ひなぎくに
^き気づきました。「かわいい
ひなぎくよ、周り^{まわ}の みんなが
^{かな}悲しんでいるのに、君^{きみ}は どうして
こんなに ^{げんき}元気なんだい？」

すると、ひなぎくは ^い言った。「はい、わたしは
ただの ^{ちい}小さな ひなぎくですけど、今朝^{けさ}、
こう ^{おも}思ったんです。もし 庭師^{にわし}さんが わたしじゃ
なくて、ほかの ^{はな}花か ^き木が よかったら、ほかのを
^う植えていたでしょう？ だけど、わたしを
^う植えてくださいました。だから わたしは、
自分の ^{じぶん} ^{かぎ}できる限りを つくして、^{さいこう}最高の ^{ちい}小さな
ひなぎくに なろうと ^{おも}思ったんです！」

庭師は、そんな 小さな 花でも、彼の 大きな
庭園に いるのを 感謝しているのを見て、
うれしくなった。「わたしの 木々や
草花たちよ。」 庭師は みんなを見回しながら
言った。「お前たちは、はずかしいと
思わないのかい？ この ひなぎくは こんなに
小さいのに、めそめそしたり せずに、自分の
造られた さまを 喜び、感謝しているんだよ！」

すると、今まで 不平を 言っていた 木々が
口々に 言いました。「自分が 造られた さまに
ついて、もう 決して、ぐちを こぼしたり、
ぼやいたり しません。植えられたことを
感謝します！」





きょう くん 教 訓



じぶん まわ ひと くら げん き だ
自分を 周りの 人と 比べたり せず、元気を 出して、
よろこ さいこう じぶん じぶん
喜ぼう。そして、最高の 自分に なろう。自分に
あるものを すべて、感謝しよう。

S&S link: Character Building: Values and Virtues: Contentment-1d

マイケル・P 作詞の歌の再話：カチューシャ・ジュスティ
さし絵：ディディエ・マーティン。デザイン・アリアクセイ・コーラン
Copyright © 2010 年、ファミリーインターナショナル
"The Garden"--Japanese <http://www.mywonderstudio.com/>